

東北三地域 横断座談会 から版 田村Ⅱ編 Vol.3/3

「かわら版について」

このかわら版は、平成 26 年 11 月 28 日、PM6 時～8 時半。会場は、東大向ヶ丘フアカルティールハウス 2 階で開催された東北三地域・横断座談会「田村Ⅱ編」の要旨をまとめ再録したものです。

田村の小沢の桜を背景に、

「……初恋—オルゴールの中のラブレター—
(田村が舞台になりました)の映像が流れる
……」

【はじめに】 露口典子 (司会・進行)
皆さん今晚は、前回の「久之浜」は、パフォー
マンスで幕が開きましたが、今回は映画なので
驚かれたことと思います。

今の映画は 2000 年の春に封切られました「は
つ恋」で、田中麗奈さんが主演されています。
主人公は 12 歳の春に失恋しました。そんな時、
お母様が病気になって急に入院し、大切にしてい
たオルゴールの中から、お母さんの初恋の人
からのラブレターが見つかりました。そこから
お話が始まる映画です。

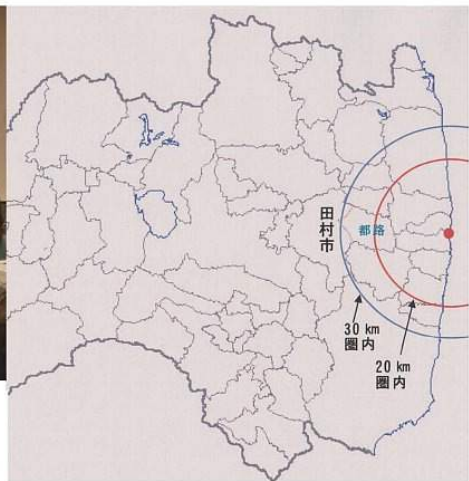
そして映画の中では、願いの桜とありますが、
これは田村の小沢の桜が舞台になっています。
今日は映画が撮りたくなるような美しい風景の
ある田村で、今何が起きているのか、どんな
所なのかを皆さんと一緒にお話を伺ってみよう
と思います。



写真② 座談会の様子 / (右から) 吉野さん、松本さん、上遠野さん。



写真① 座談会の様子 / (右から) 露口さん (進行)、逸見さん、坂上さん (部会長)



図① 福島県都路地区の福島第一原発からの距離

露口 実は最初、私たちは桜を観に田村に行つたのではなく、ここにあります。お人形様の衣替えの行事を見に行きました。その訳は、私どもの会は日本建築美術工芸協会と言いつて、様々な分野の人たちが、都市の風景を考える、という会で、この中に情報文化部があります。この部会長が、坂上直哉さんです。彼は美術家、アーティストです。私は、副部会長をしており、まず露口です。本日は進行を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願ひします。

私たちのメンバーの中に吉野ヨシ子さんがいます。彼女は、実は田村市出身で、「田村夢大使」をなさっております。それでは吉野さんから、田村からお越しの 3 人のゲストの方々をご紹介いただきます。

●吉野ヨシ子 (田村市出身、田村夢大使、芸術家、吉野です。本日はよろしくお願ひいたします。最初に紹介します。

●渡辺辰夫さん (震災前は) 田村市都路町でレストランホットハウスを経営され、現在は船引町で商工会長として復興を支援しておられます。続きまして、

●逸見克己さん (船引町の方で市の職員で、田村市の遺跡の調査等をされている郷土史家です。もうおひと方、

●上遠野伸一さん (船引町の方で市の職員で、田村市の郷土を伝える写真家でもあります。先ほどの小沢の桜も後ほどお話があると思います。(映像を見ながら)

田村市は郡山と海側のちょうど真ん中辺にあ



写真③ お人形様のお顔を囲んで

りまして、阿武隈高地で台地になっております。こちら側に奥羽山脈が通っていて、ここが中通りと言ひまして、田村市はその中に入っております。

上遠野 田村市は船引町、常葉町、大越町、滝根町、都路村の 5 地区が合併して 588 平方キロあります。合併当初は 4 万 3000 人いましたが、震災後は 2 万 6000 人です。

露口 最初にお話ししました田村市に来るキッカケとなりました。お人形様はどの辺なのでしょう。うか。

上遠野 “お人形様” は 2ヶ所にあるのですが、「屋形・朴橋・堀越」と、丸い点が 2ヶ所ありますが、船引の南側です。

春と夏の写真は「小沢の桜」です。小沢の桜は私が名前をつけ、写真を町のパンフレットに掲載し、東京などで PR した結果、「はつ恋」のロケ地になりました。

秋の写真はのんびりと親子の牛が牧草を食べている様子です。先の原発事故でこのような風景は失われてしまいました。



写真④ 田村市の四季折々の風景



写真④ 都路・岩井沢地区の田園風景 (平成 26 年 11 月 23 日撮影)

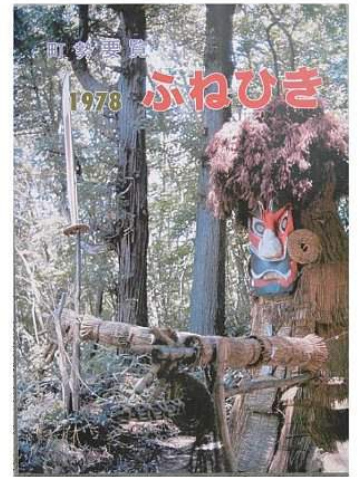
上遠野 (映像) これは今日の為に 5 日前に撮った都路の岩井沢地区の田園風景です。遠くに見えるのが五十人山です。懐かしい風景で、家族みんなで田んぼの収穫作業をしているところです。今も原発事故前のように田んぼで米を作っているのですが、原発事故の翌年ぐらゐまでは線量が心配で子供たちには会津とか県外の米を食わせているという人がいました。

(映像) これは希望の明かりというか、暗闇からこのような景色を見たかったので、暗いうちから山に登りました。美しい町だと思えます。都路の灯祭り、この最大のイベントです。竹筒にローソクの火を点けて一番賑やかな年でした。この次の年に原発が起きて中断し、今年やっと復活しました。

(映像) これは田村名物の灯籠流しですね。多重露光で一枚の中に発の火花を入れました。市内では一番人が集まる行事です。

露口 そして私たちが見学した「お人形様」なのですが、上遠野さんは広報のお仕事をされていたのです。

上遠野 実は、このお人形様は誰も知らなかったのです。私が昭和 55 年に地元出身の係長さんと一緒に「お人形様」に会いに行きました。



写真⑤ 船引町「町制要覧」(昭和 53 年)

小高い丘の上にひっそりとしていました。お人形様は鬼のように怖い顔をしていて、外敵から地区を守る為に刀を差して、薙刀を持って、両手を広げて通せんぼをしているのです。非常に感動しました。これは地元の人しか知らなかったのです。そして昭和 55 年の「町制要覧」にこの写真を初めて表紙に掲載すると、さまざまにマスコミに取り上げられて有名になりました。

露口 吉野さんは知っていましたか？

吉野 私も知りませんでした。今行ってみて衣替えも初めて拝見しました。船引駅を降りますと、このお人形様が居て、何でここに居るのかなーと降り立つ度に不思議に思い、地域しか知らない行事だったのです。

逸見 お人形様は現在七つ在ったと言われております。その内の一つは田村市ではなく隣の滝桜で有名な三春町に在ったようです。実は燃えてしまつて、木で作った眼だけが残っています。

(映像) これがセリガサワですね。次が屋形のお人形様、朴橋のお人形様、それと堀越のお人形様、現存するお人形様はこの三体なのですが、他に面だけ残っています。これは田村市の一番南端、タキネという所にあります。これはお人形様と言わず「天王様」と呼びます。これで現在判っているのは五つです。他に大越という所に「お人形」という地名を載せているところがあり、ここにも在ったのではないかと。また、中間部分のコウダイジにも在ったのではないかとわれ、全部で七つになります。

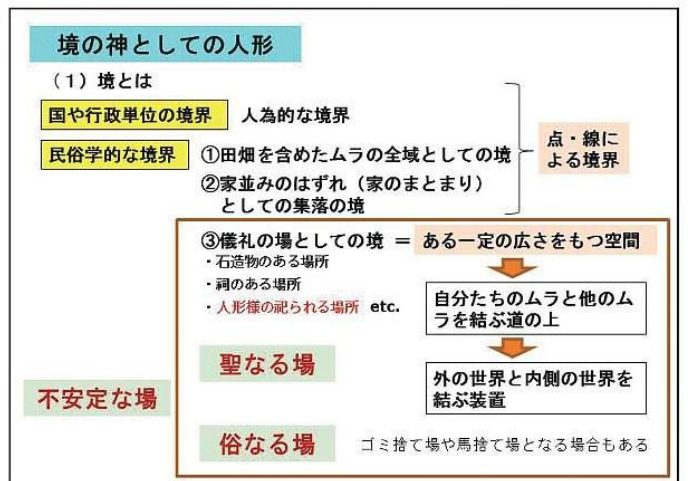
(映像) 磐城街道がこのように通り、そこに在ったということ、磐城街道沿いの七つのお人形

様と言われております。

露口 お人形様はいつ頃から在ったのですか？

逸見 一つ頃から在るかは難しい問題です。例えば①屋形のお人形様ですが、現在のお面の前に作られたお面がこちらに持参したこれです。このお面の横側に「文化五年」(江戸 1800 年)とありますので、この時期には行っていた事は判ります。写真では大きそうではないのですが、全体で 4メートル程の背丈になります。実は江戸時代初期に、それぞれの村に疫病などが入つてこないように、こういったワラ人形を村の境に立てるといふ御触れがあったのです。それ以来、このようなものが全国的に広まったと考えられます。

先ず、写真⑥の①屋形のお人形様ですが、古い方のお面は昭和 55 年に作られたものです。彩か綺麗ですが現在ではペンキを塗っています。四本の柱を立てて作りますが、これらは 50 年に一回取り替えます。屋形のお人形様は一つの集落の共同作業で作られており、それぞれの集落から柱を一本ずつ持ち寄ります。長さは 4メートル 80センチあります。



図② 村の境に設けた「境の神としての人形」

次が②朴橋のお人形様です。これは先ほどのものとは顔が少し違います。そして少し小振りです。金歯で非常におしゃれ、そしてヒゲがありません。実は他のものはヒゲがあります。従いまして、男と女、年寄りと言う人もいますが、良く見ると黒く塗ったこの部分はヒゲそのものであると私は思っております。3メートル 50センチぐらいの大きさです。

次は堀越のお人形様③です。今までのお人形様は屋根が無かったのですがこれは有りです。素晴らしいと思いますが屋根は後で作られたものです。実は、明治三五年ぐらゐまでは作られていましたが一度廃絶しまして、平成三年に新しく祀られました。お面は明治時代に使われていたものをそのまま使っております。ケヤキの一本彫りです。

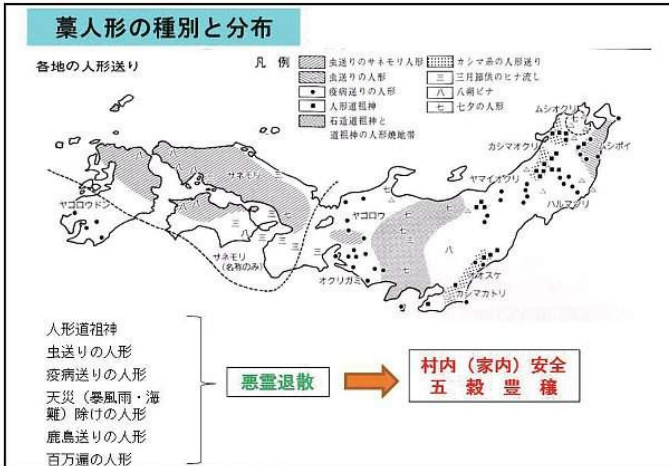
お人形様の制作技法(①〜⑧・次頁)ですが、朴橋の場合、最初に面を外します。上の髪の毛の茶色になった杉の葉っぱは全部取り除きます。次に衣を全部外します。一方「ヤド」といわれるところでは、手になる部分とか、服になる部分をすべてワラ(藁)で編みます。他にはナギ



写真⑥ 3つの地区のお人形様の表現と特徴/①屋形、②朴橋、③堀越



写真7 3つの地区のお人形様の制作・技法



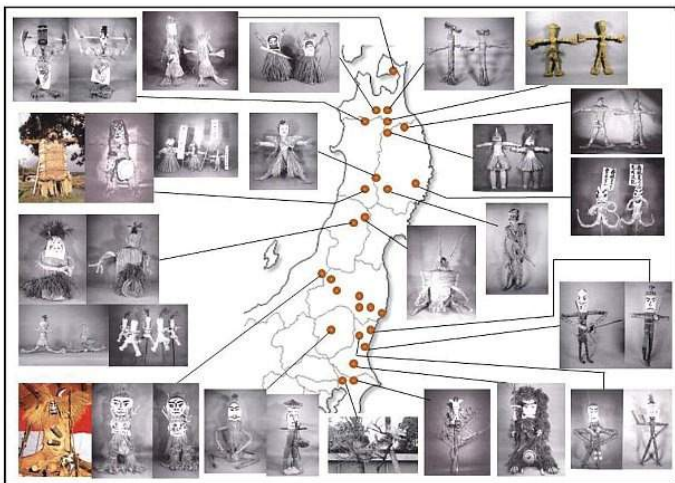
図③ 全国の藁人形の種類と分布

ナタや刀のツバも編みます。また、外した面に新たに色付けを施しますが、現在はペンキを用います。こうして一年間の家内安全・五穀豊穣を祈って、お人形様の前でお酒を飲み、直会を行って終了となります。

昔は、屋形のお人形様ですと衣替えは旧暦の11月15日、祭礼は同じく旧暦の12月15日にやりました。現在は1月の第2日曜日にやるのが決まっております。堀越だけが11月6日になります。屋形と堀越の場合は、それぞれの集落からその年の役員を決めて行います。朴橋は始まった当時から担当が一軒に決まっています。子孫に受け継がれています。

露口 皆さん行列して上がってくる意味は、そこに何か神事的なことがあるのでしょうか？

逸見 大晦日など、皆さんがその年に飾ってあるものを大祓いするのと同じことで、今度は新たに皆で行列を組んで神を送り、戻ってくるという一つの神事です。奉納、久延毘吉命とありますが、これがお人形様本来の神様の名前です。久延毘吉命とは、古事記の中に大国主命が出て



図④ 東北地方の藁人形の種類と分布

きますが、クニビコとは會富騰・案山子のことです。案山子は田んぼの中に立って世間を見渡している。悪いことが起きないように見張っている。古事記の中では、山田の會富騰」と書かれています。これは農村の神様という訳ではなく、村境の神様、町境の神様で、村境に祠とかが祀られています。

集落のことを洞と言います。一つの洞はのの軒のまとまりで、屋形の場合は四つの洞があります。

福島県内にはどのようなお人形様があるのかと調べましたところ、結構多いですね。会津といわきの一部と船引町芦沢を中心とした三つの地域です。

いわき市のお人形様は杉の葉っぱ、会津は全部ワラです。顔については和紙に描いています。芦沢はその融合したかたちになるのではないかと。二つの文化圏がたまたまこでぶつかったのではないかと考えます。

図④、これは福島県以外の東北の藁人形の分布で関東地方にもあります。



写真⑧ 平成24年8月新装開店した田村市引船町の「ホットハウス」。(上) スタッフの皆さん。(左下) 自慢の「ハンバーグステーキ」。(右下) お店のエントランス、奥にはショッピングセンター「メガステージ田村」がある。

露口 (映像) いきなり美味しいものが出てきました。これはホットハウス、渡辺さんの所でいただいたランチのハンバーグです。出された途端に食べ始めましたので、途中の写真で失礼します。どの様な所でレストランをしようかしやるかといいますが、船引のメガステージ田村のショッピングモールです。ここにお店を再開されました。この近くに仮設住宅があり、全部都路の方たちが住んでいます。

渡辺 明治時代に岩井沢村と古道村が合併して都路村になりました。中央地区が古道で、そこに行政区があります。そして震災前は、この666号線と288号線のちよど交わる所に私の店がありました。

私は昭和22年に生まれまして、小さい頃都路村は当時貧しい地域でした。岩井沢中学校から双葉高校に行きましたが、中学の時の同級生が100名ちょっといました。私が高校に進学する時の進学率は10パーセントでした。昭和66年、双葉高校に進学した年に福島第一原子力発電所の建設が始まり、最盛期には300人くらい

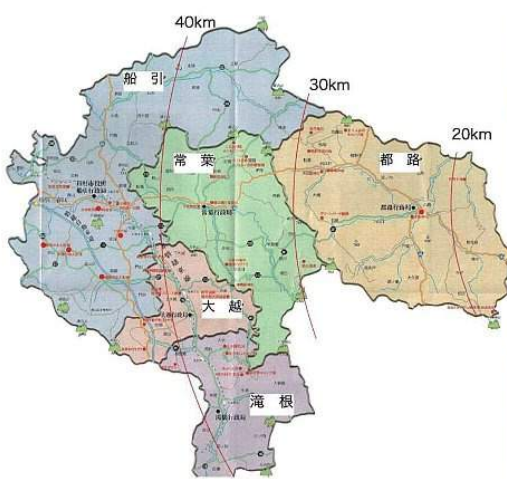
の人が原発建設作業に関わりました。都路もそこで働くようになって所得が上がり、当然進学率も上がりました。

卒業後、昭和 55 年に東京のオートコーヒーという会社に入社しました。原発が稼働した年です。配属されたのが世田谷の桜新町にある大きなレストランで、裏に製パン工場がありました。その後、横浜の新店舗の立ち上げに行き、再び世田谷に戻ってレストランに入り、帝国ホテルの技術顧問の方から帝国ホテルレシピで指導を受けました。やがて渋谷のセンター街にあるリトルマーメイドに移り、6 階のレストランで一年ぐらい勤めた頃、福島のお父さんから戻って店をやらなにかという話がありました。私が昭和 54 年に都路に店を建てた時には、このバイパス (288 号線) 沿いに他には建物は一つもなかったのです。

露口 (映像) ここに地図がありますが、かつてのホットハウスはここですね。288 号線がこのように走り、20km から 30km の間。以前、都路ハムがあった場所ですね。そしてもう少し行くと、この辺りに渡辺さんのお宅があります。そしてペンションがあり大熊町になります。この辺まで行くに許可証がないと入れない所になります。

(図⑤) ここが第一原発、第二原発、これが 10km 圏、こちら側が川内町・浪江町です。渡辺さんのお宅は 20km 圏になります。実は私もが昨年の 4 月にお伺いした時に、たぶん川内町辺りでしょうか、通常の報道では中々見ないのでギョツとしたのですが、黒いビニール袋「フレコンバッグ」(正式にはフレキシブル・コンテナ・バッグ・写真⑨) が積まれてシートが掛けてありました。これは吊れるようになっていて、汚染で出たゴミを一袋に一トンほど詰め込めるようです。

渡辺 (ここは (写真⑩)、大熊町と都路の境のところの保管場所の様子です。)
露口 “最大積み上げ高さ: 3メートル、0.35マイクログラム/時”と書いてあります。これらのバッグは 6 年半ほど経っています。耐用年数が 5 年ですから、移動の時期になっ



図⑤ 田村市内の国が定めた避難指示区域 20km 圏は、平成 26 年 4 月 1 日に解除準備区域から解除された。左図は田村市の 40km までの区域区分図。



写真⑩ (上・下) 都路町内に設置された除去土壌保管場所 (平成 26 年 11 月)

写真⑨ フレコンバッグが積まれた除去土壌の保管場所 (平成 25 年 4 月)

写真⑩ (上・下) 都路町内に設置された除去土壌保管場所 (平成 26 年 11 月)
露口 4 月 13 日に商工会の連合会で 120 の商工会の会長が集まって補償問題を話し合い、22 日には警戒区域・緊急時避難準備区域が指定される。1 月 1 日には東電から賠償説明があったそうですね。

ています。
渡辺 (ですから、今、報道などで問題になっている中間貯蔵施設に移さなければいけないのですが、この場所が決まっております。どうするのでしょうか！)
震災日の 15 時 50 分、私は厨房に居ました。あまりに揺れが激しいので、妻と二人、外に出ました。立つて居られないものですから、駐車場にしゃがみこんだのです。パツと振り向いた瞬間に、小学校校庭の裏山が一瞬にして滑り落ちたのです。
揺れが収まって店に入りましたら、食器類はすべてダメ、200 キロのガスオーブンのボンベは 60 センチ飛び出ていました。盛土に建てた店は傾いて、使えないと思いました。
露口 (ご自宅の方はどうだったのですか？)
渡辺 (揺れが収まって、20km 圏の一キロ内側の自宅に戻ると、家は何でもなかったのです。阿武隈山系は地盤が硬いのです。何の被害もありませんでした。)
次の日、店の片付けに戻りますと、店の道路 (289 号線) を大熊方面から次々に途切れることなく車がやって来ます。最初、警察官が一人来て店の駐車場に車を置き、大熊方面から来る車を近くの体育館へ避難誘導していました。ですが、あまりにも車が多く、一人の警察官ではさばききれないので私も手伝いました。そのうちに大熊町の女性の商工会長さんが私の店の駐車場に入ってきました。そして、原発が危ないと初めて彼女から聞いた訳です。都路には無線や有線放送での連絡はありませんでした。
露口 (避難指示が出たのはいつ頃だったのですか？)
渡辺 (12 日の夜 8 時頃だったと言っていました。というのは、私は夕方には既に避難してました。そして商工会を移し、100 名の会員の所在確認を始め一ヶ月半ほど掛かりました。)
露口 (4 月 13 日に商工会の連合会で 120 の商工会の会長が集まって補償問題を話し合い、22 日には警戒区域・緊急時避難準備区域が指定される。1 月 1 日には東電から賠償説明があったそうですね。)



写真①
(上段)
左：都路町の仮設避難住宅。
中：都路町の国道288号沿いにあった元「ホットハウス」。
右：元ホットハウスの跡地。コンビニの告知が示されている。
(中段)
左：岩井沢地区に開店した生鮮食品・生活雑貨などを扱う商業施設「DOMO(ど〜も)」。
中：同、店舗内部。休憩・対話するスペースが新設された。
右：元ホットハウス跡地に建設されたコンビニ店。
(下段)
メガステージ田村。写真右が新装「ホットハウス」。

ふくしまに元気を!

レストラン
ホットハウス (田村市船引町)



「都路に戻る日まで頑張りたい」と話す渡辺さん

住所
田村市船引町船引字源次部113
「メガステージ田村」内

電話
0247(73)8724

営業時間
午前11時～午後2時、午後5時～午後8時

定休日
火曜日

都路から移転して再開

田村市都路町の二八八号 沿い、船引町は都路 国道沿いにある洋食レストラン。東京電力福島第一 原発事故で緊急避難準備 区域となり一時休業した が、平成二十四年八月に同 市船引町に移転して再開し た。震災前とは同じメニューを提供している。慣れ 親しんだ味を求めて川内村 や宮尾村など近隣町村の常 連客も避難先から訪れ、交 流や情報交換の場となっ ている。

都路では避難指示が四月 に解除され、商業施設のオ ープンや中小学校の再開 など復興の動きが徐々に 出始めている。渡辺さんは 「もう一度地元店を構え る日まで、ここで頑張ら なくてはならない」と決意を新たにしてい

図⑥ 平成24年8月 東京新聞より

【編集から】渡辺さんは、かつての都路町のレストラン店主（都路町商工会会長でもある）という個人として、「あの日から一福島を語り継ぐ」（東京新聞に26年2月～3月まで全17回）この都路町の現況を取材され、その日常の変化、内容を話して掲載された。そこには被害状況など身の回りの問題からストレートに現実と向き合った町民の姿があった。その情報伝達もあってか、メディアは渡辺さんをこの地区の代弁者として取り上げ、地域住民の現状を客観視し出来、状況を代弁できる人物としてみられている。

福島の原宿と 店移転の無念 思わず吐露

東京電力福島第一原発事故 後に営業停止を余儀なくされ た福島田村市のハム・ソー セージ製造「ハム工房都路」 の新築オープンを祝う式典が 4月、市内で開かれた。市長 関係者が出席し、「素直な 気持ちでうれしむたいで ようなあいさつに立ったの は、都路町商工会長の渡辺 順夫(61)だ。

ハム工房は16年、旧都路 村と川内川町平塚市の商工会 社が出資して開業した。都路 の牧場で飼育された「まよと 豚」を使い、本場ドイツの食 品競技会7年連続で金賞を 輝いた肉質を誇る。都路の特 産品で、地区外からも多くの

客が訪れる観光スポットだ った。しかし、福島原発が原 外れたものの、牧場も含めて 閉鎖された。再開をめぐって 工場の確保が新たな約20万 円かかる。都路あり約20万 円は原外移の豚だ。扱っ 今や、都路の豚は、もも完 全に不足している。そんな 同し20年開業した場所 でレストラン「ホットハウス」 を経営していた渡辺さん。 みて分かっていった。それで、 あいさつに「都路の商業は 大変だ。」「都路の商業は 大変だ。」「都路の商業は 大変だ。」と吐露した。

県内の高校卒業後、東京 のレストランで経験を積み、 1997年に、都路の中部 1号館を移転して自分の店を 開いた。自らは「フレンチ ユー」地元住民にも人気だ。 しかし、原発事故がすべてを 狂わせた。避難先で、近隣の 田村市船引町で店を再開す る。しかし、震災後の都路 での店を再開するのは12年 ぶりだ。避難先で、近隣の 田村市船引町で店を再開す る。しかし、震災後の都路 での店を再開するのは12年 ぶりだ。避難先で、近隣の 田村市船引町で店を再開す る。しかし、震災後の都路 での店を再開するのは12年 ぶりだ。

図⑦ 平成25年4月27日 読売新聞より

渡辺 東京電力の副社長が我々にお詫びを申しあげたいという事で来ました。これが最初でした。その後、田村市の災害対策本部の方、内閣府・経済産業省・農林水産省、それから松下経済産業副大臣(当時)、そして平野復興大臣(当時)等が来ました。

我々の方は、市長・副市長、各部の部長、JAの組合長、議会議員、それと商工会では私と商工会長が呼ばれ、政府と直接やり取りをしました。

露口 直接やり取りをされ、これが後に都路方式と呼ばれることになったのですか。

渡辺 あの頃は国自体、各省バラバラでしたので、我々は窓口一本でいきます、あなた方も窓口を一つに絞ってください。我々と直接、賠償問題を話し合いました。これが始まりです。

これが多分の月頃でした。また、東京電力の方も商工会に対して賠償問題についての説明をしたと言ってきましたので、誠意があるならあなた達の社員をここに常駐させなさいと要求しました。すると上司に連絡し、時間ほどで決まり、後の都路多目的研修施設(旧都路ハム)に二人常駐することになりました。今も常駐しています。

露口 9月30日には商工会会員の9割が賠償の申請を終えるというスピードでしたね。

渡辺 福島県内でも我々は一番際立っていました。後に福島県商工会連合会が都路方式といきました。その後すべての商工会に波及してゆきました。

平成16年に四町村が合併して田村市になりました。それ以前に農協の合併・森林組合の合併がありました。それにより地元の団体長は支部長になり、他の地域の人が就任し、地域を代表する団体がなくなりしました。唯一残ったのが商工会でした。ですから国の方も、商工会を中心とした一つの窓口と交渉するのですから、遣りやすかったと思います。

露口 震災の年6月30日に緊急時避難準備区域が解除となりました。そして20kmから30kmの住民の帰宅が可能となり、次の年の4月1日には新たに再編され、皆さんが帰り始め

ますが、実は今年二月一日にお伺いした際に都路はあまり賑わっていないようでしたが…。
渡辺 今現在の都路の人口は3000人ですが、20km圏と30km圏に分断されまして、20km圏内は33%、30km圏内は51%の帰還率です。20km圏内の人はまだ殆ど仮設住宅に住んでいるのが現実です。この分断は、簡単に言えばコミュニティの崩壊です。賠償金額もまったく違うのです。私の自宅は20km圏内、お店が30km圏内です。分断が易いと思います。

お店が壊れ、24年8月25日に船引に新たに店を建てました。国から3000万円の融資、県から500万円の補助を受け、残りは自己資金でした。東京電力からの賠償金は一切ありません。20km圏内は今年(2014年)4月1日に解除になりましたが、130世帯380名ぐらいの人たちには帰りたい人、帰りたい人がいて、様々な問題があります。

上遠野 震災から9年が経ち、学校が再開しなければ都路地区は復興しないという思いのもと昨年、都路地区の学校再開に向けた説明会を何度も開催しました。一部の保護者から「なぜ0.23マイクロナンノメートル/時に下がらないのにどうして再開するのか」という意見もありましたが、大多数の人達が再開して欲しいとのことでした。今年4月1日にこども園、小・中学校が再開となりました。多くの子供たちは避難先からスクールバスで通学しています。

渡辺 昔、都路の人たちは隣組で農作業を手伝い助け合っていました。私は商工会の中に「結」を立ち上げました。そしてその中で住民たちにアンケート調査をやりました。直接の聞き取りの中で一番多かったのは、買いたい物ができない、食べるところがない、ということでした。

そして買い物や食べられる場所・商業施設を作ろうということになりました。商工会で使える補助金がなくなったのですから昨年の9月(6日か7日)に我々17名で通産省に相談に行きました。すると先方は、自分たちが都路に行きますということになり、その月の28日に本省から20名来ました。本省が動くと思えます。結局総勢20名になり、地震の被害や放射線の

為に農業が出来ず、田圃は草ぼうぼうの状態など、歩いて案内しそこから始まり、必要なものについて1月から具体的に動いて行きました。
露口 (映像)これが岩井沢の(DONMOI)写真(中段)ですね。

こちらが(同写真・中段)古道の方で、皆さんの交流が出来るようなスペースがあります。以前、渡辺さんのホットハウスがあった場所には、コンビニエンス・ストアが出来るそうですね。

坂上 これは参考ですが郡山と都路では、郡山の方がシールドは高いです。土地の人たちは皆知っています。マスコミはそれを話しません。
露口 渡辺さんのお店に夜伺った時に、結婚式帰りの都路の方々がちょうど入って来られて、その中の一人が渡辺さんの肩をぽんと叩いて、「ポツとするところが無いんですよ、俺は寂しいんですとおっしゃっていました。その思いは、行って初めて分かりました。

今、都路にコンパクトシティ構想があるそうですが、どのようなものですか？
渡辺 都路の住生活基本構想という内容ですが、協議会が6月30日に基本構想を策定しました。この座長を務められたのが東京大学新領域創成科学研究科の出口敦先生です。

そのコンパクト街づくり構想ですが、あと10〜15年で都路には超高齢化社会が確実にきます。その時点で住民には2つしか選択肢がありません。「都路に戻るか、船引に住むか」、また、「郡山や他の地に行くか」。そして、「都路に戻る住民がどれだけの割合か」。

ですからコンパクト街づくりは煩悶なのです。これはすでに川内村で実証されています。村長さんが頑張って帰村宣言をされて、さまざまなインフラ整備をしました。それは、地域を6月2日以前に戻しても、住民は戻らないということを実証してしまっただけです。

露口 原発が起これなくても、現実には徐々にそうなっていくでしょうが、それが加速されたということですね。
渡辺 時計の針が20年から15年、この原発事故故によって一気に進んでしまいました。

逸見 私が言いたいのは、10km圏・20km圏・30km圏とは単に円で区切っただけです。東京電力の原発事故の性です。

私たち東北人はけっしてその電力を使いません。それなのに何故、都会の人たちは福島を目の敵にするのでしょうか…。私はこの事をこの場で訴えたいです。

渡辺 これが「線量計」です。私の家は20km圏内ですから必ずこれを持って計りながら帰って行きました。

正直言いますと、本日、私はここに来るのを悩みました。この9ヶ月をどう皆さんに理解していただけるのだろうか…。

しかし、誰かがこの事を言い続けないと原発事故が風化してしまいます。そうさせては絶対駄目なんです。

今、私は2DKに住んでいます。20km圏内の自宅に帰ってみればネズミが住んでいます。これが現実です。この状況をどういった言葉で伝えたらよいのか、私は分からなかったのです。ですから正直、この場に来るのをためらったというわけなんです。今日はこのような機会をつくっていただけて感謝しております。有難うございました。

坂上 皆様、有難うございました。 【27】

【座談会を終えて】第三回―田村編
田村市都路は山並み・田園風景と美しい内陸の地。地震や津波の被害こそ無い地域だが、最も難しい問題の地域のように感じた。国の決めた放射能範囲域を示すコンパスラインによりこの地域は分断され、その地区間のコミュニティは壊れていった。そのライン数十メートルでも天と地ほどの開きが出る。その被害を自視できないだけにこの放射能の恐怖は、わが国における原発を考えるうえでの一石となるのだろうか。(編者)

「田村編」かわら版」平成二十六年十一月二十八日
会場：東京大学農学部・向ヶ丘ファカルティハウス
○テキスト：小野行雄(情・文委員)
○編集担当：吉川盛一(情・文委員)
○発行：NACA 情報文化部会